



# 東京多摩プロバスニュース

第 61 号

■事務局: 〒206-0034 東京都多摩市鶴牧 5-29-10 平田方 ■編集・発行: 広報委員会 2015. 7. 1.

■電話・FAX (042) 338-7022 ■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com>

## 多摩の地域文化を育てよう

### 第 131 回 定例会

日 時 : 平成 27 年 5 月 13 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 : つむぎ館第1会議室

出席者 : 26 名(会員数 33 名)

### 第 132 回 定例会

日 時 : 平成 27 年 6 月 3 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 : 関戸公民館第2学習室

お客様 : 多摩市体育協会会長 山田春美様

出席者 : 28 名(会員数 33 名)

### 理 念

1. 豊かな人生経験を生かし地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造する
3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非営利的であることとする



ごあいさつ



### 東京圏高齢者地方移住促進の提言に思う

地域奉仕委員長 森川静子

有識者で構成する日本創成会議に於いて 6 月 4 日、東京圏(東京・神奈川・埼玉・千葉の 1 都 3 県)は今から 10 年後 2025 年には団塊の世代が 75 才以上となり、介護施設が 13 万人分不足し、また介護の人材が約 80 万人から 90 万人不足すると発表した。

その上、東京圏は医療・介護の受入能力が全国平均より低く、「患者のたらい回し」や「介護施設の奪い合い」が発生する可能性があり、地方移住を促す施策の推進等を提言している。

この提言は私にとって身に詰まされる思いがする。なぜならば 2025 年は私と夫が 74 才となり、この対象になる年代だからだ。はたして、私も夫も地方移住を考えるだろうか。老後の事を考えて桜ヶ丘の駅前のマンションに引っ越して来たばかりで、それなりにバリアフリーにリフォームをした。

また、多摩プロバスクラブの現状はどうであろう。現在の会員の平均年齢は約 76 才、現状で 10 年後の年齢に既に達している。

しかし、みんな生き生きと暮らしている。趣味を活かしそれなりに人生を謳歌していると思う。これはあくまでも私の見解ではあるが、地方に移住を希望する会員は、まずいないと思う。

まずは地方移住ではなくその前に年寄が医者にかからず、介護生活を送らないで済むための施策こそ必要なのではないだろうか。長野の佐久市に「ピンピンころり」というお地蔵さん、奈良の斑鳩には「ぼっくり往生」の寺があるそうだ。私もこの世を去る時はピンピンころりで介護生活を送らず消えていきたい。この多摩の地で……。



深緑のトウカエデ並木 (多摩市愛宕南通り)

1. 幹事報告

西村政晃幹事

1.1. 「WORLD CAMPUS in 多摩 2015」に名義後援

8月5日から8月11日まで開催される同事業に対して例年通り当クラブの名義後援を承認した。

1.2. 八王子PC「第19回生涯学習サロン」閉講式に出席

5月14日(木)行なわれた閉講式(特別講演、さよならパーティー)に当クラブから3名が出席した。

1.3. 第12期(平成27年度)定期総会の準備が完了

7月1日(水)開催の定期総会に向けて3回にわたり新旧合同理事会が開かれ、準備がおこなわれた。

現任理事・監査と次期理事・監査候補とが出席し、4月28日(火)、5月27日(水)、6月10日(水)合同でツメを行なった。

その主な内容は第11期(平成26年度)の活動報告、会計決算報告、監査報告並びに第12期(平成27年度)活動計画、会計予算で、議案書を作成した。

2. 委員会報告

2.1. 総務委員会

倉賀野武士委員長

1)5月度定例会(5月13日)

都合により、平田哲郎会員に前回のDVD放映の卓話のつづきをお願いした。

2)6月度定例会(6月3日)

卓話：阪東熙子会員による「衣更えとおとし文」のテーマで実施。 関連記事P3参照

3)4月末に永島仁会員が退会し会友になった。

4)今年度最後の総務委員会(6月3日)で次年度引き継ぎ事項の打ち合わせを実施。

2.2. 研修・親睦委員会

鈴木達夫委員長

1)上高地研修一泊旅行

5月28日(木)～29日(金)にサロンバスで出掛け15名が参加、2日とも好天に恵まれ、ハイキングコースを梓川の遊歩道から雄大な穂高連峰を望み、1日目は明神池へ2日目はウエスタンレリーフへ散策、初夏を楽しんだ。帰路に「中の湯温泉」へ立ち寄り、入浴で汗を流した後、昼食に信州そばを全員で賞味した。 関連記事P4参照

2)7月1日(水)定期総会後に京王クラブにて懇親会予定。

2.3. 地域奉仕委員会

森川静子委員長

1)「日本のマナーについて」の講演会

多摩市立多摩中学校の依頼を受け、一年生139名を対象に「日本のマナーについて」の講演を6月26日(金)滝川道子会員の講師で行なった。

2.4. 広報委員会

稲田興委員長

1)プロバスニュース第61号の第一回編集会議を5月22日に実施。編集計画内容を5月27日の理事会で説明・了承を得た上で、6月3日の定例会にて原稿執筆依頼。

6月19日・24日の編集会議で最終校正を実施、7月1日に発行。

2)当クラブのホームページは、プロバスニュース第60号の内容や、その他を反映させて、6月26日(火)に更新公開。

◇◇◇ かるた普及プロジェクト ◇◇◇

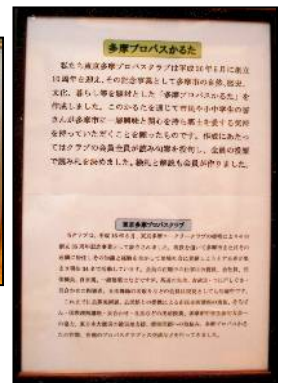
大澤亘リーダー

1. 貝取こぶし館の文化祭に出品

6月6日と7日の両日、貝取こぶし館で開催された文化祭に「多摩プロバスかるた」(以下「かるた」という)を出品した。絵札読み札それぞれをB2サイズのパネルにはめ込み、当クラブの説明文を添えて展示した。会場では絵画・写真・書・生け花・各種工芸品など近隣の市民の作品が並び、吉岡喜久恵会員も貝合わせの責任者として活躍された。「かるた」を熱心に写真に撮っていた見学者も見受けられた。



写真上：絵札の46枚



写真右：プロバスかるたの説明

2. サロン「この指とまれ」でかるた紹介

6月18日に市内のサロンの一つ「この指とまれ」から要請があり、山田正司会長とその例会に出席して「かるた」の製作経緯とその内容などを説明した後、「かるた」を使って出席者20名全員に二回ずつかるた取りを体験してもらった。「かるた」の出来栄え、特に絵札が好評であった。



1組6人のグループに分かれて多摩プロバスかるたを楽しむ

3. 全国の郷土かるた展に出品

6月4日から神田神保町の奥野かるた店でNPO法人日本郷土かるた協会主催の「全国の郷土かるた展2015」が開催され、首都圏を中心として選ばれた約70の郷土かるたが展示された。わが「多摩プロバスかるた」も展示紹介された。多摩地区では、ほかに調布・府中・国立・三鷹・田無の各市のかるたも展示されていた。

**衣更えとおとし文**

定例会の前夜 6 チャンネルで身長 60 cmもある大蝦が、脱皮する力強い映像を見て今回の卓話のテーマを衣更えと定めた。6月は「ヌケの日」がある衣更えの月である。クールビズと言って女子学生が半袖の制服になり、新幹線の駅長が白いスーツ姿に替るなど、町の中にさわやかな風が流れ、梅雨前のひと時を明るくしている。

旧暦4月17日と11月20日が、衣更えの日と定められた習慣があったと古書に示されている。また平安時代は「更衣」という天皇のお召し替えを司る後宮の女官の官名であったという。今は身近に体育館の更衣室とか、結婚式場の親族更衣室とか、単に着替えする部屋の事になってしまっている。

しかし、伝統芸能に携わる人々の着衣では、今でも季節感にはこだわりがある。和服の例で紹介すると長着の素地では絹、紗、明石縮、越後上布、薩摩上布に紗袷等を用い、長襦袢も麻上布、絹と定められ、半衿や足袋も夏物とする。帯も絹綴(ろつづれ)錦を礼装の折には絞める。草履も町歩きの時、パナマやしな布の物を揃えられれば申し分ない姿となる。欧米ではよく知らないが、季節感には余り拘らず、ドレスコードを守れば個性尊重のファッションで通るようだ。

利休の語として夏は涼しく云々とある。《⇒右段へ》

**阪東照子会員**



「おとし文」の菓子

日常生活の中に簾を掛けただけでも涼しさを感じられる。もっと四季に敏感でありたい。四季と言えば本日の菓子の銘は「おとし文」という。美味しくいただいたがそもそもおとし文とは虫の名である。体長1cm位の背の甲が茶色の小さい虫の事で成虫が葉の裏に卵を産み付け、それを巻紙のように丸めた形と、小豆の餡を芯にしてこなしで作った青い葉でくるくる巻いた菓子の形が似ている事で名付けたようだ。ヤヤコシイと菓子屋も茶の先生も詳しく説明しない？が1981年(昭和56年)5月の「太陽」別冊に、細川護貞公による菓子の解説があり、本当の銘は「よそえ文」とある。よそえとは事よせる、他の事実を口実にする意味を含むとある。

世の中には、まだまだ不可視な憶測の世界がある。探求するのは誠に楽しいと実感している。

梅雨間近なので傘の帯の筆者⇒



◆◆◆ 近隣 PC と交流 ◆◆◆

**交流ゴルフ大会**

**北村克彦会員**

去る5月26日(火)、八王子・日野・多摩プロバスクラブによる、第3回交流ゴルフ大会が開催されました。場所は相武カントリー倶楽部、幹事クラブは日野プロバスクラブでした。多摩からは鈴木達夫・増山敏夫・澤雄二・登坂征一郎・北村克彦各会員と弐句会の川久保康男さんを加えた6名、八王子から6名、日野から10名、全部で22名の参加でした。昨年5月は、後半雷雨に見舞われて前半だけの競技となり、10月は雨天中止でしたが、今回は新緑の中、好天に恵まれて無事終了しました。

成績は、1位が日野の久保正男さん、2位が多摩の川久保康男さん、3位が八王子の小林時雄さんで分け合いましたが、成績後位の20・21・22位を多摩が占める結果になりました。

次回は10月を予定しています。それまでに、もう少し腕を磨いておきましょう。



多摩プロバスクラブの参加メンバー

◆◆◆ 3 分間スピーチ ◆◆◆

**校歌(中野区立塔山小学校)について**

**鈴木泰弘会員**

中野区立塔山小学校校歌 清水重道 詞 信時潔 曲

- 一、おたがいに はげましあつて  
すこやかな社会をつくろう  
そうだ のびのびと  
科学する 力をやしなう  
塔山の子どもに  
あたらしい知識がかがやくよ
- 二、三番は、省略する。

5年生になった昭和31年、開校30周年を期に制定された校歌です。入学した時の「尽忠報國」精神あふれた旧校歌に比べ、平明な詞と二長調の歌いやすいメロディーの曲です。作詞は歌曲「沙羅」の清水重道。作曲は「沙羅」や「海ゆかば」並びに、学習院・慶應義塾など900もの校歌を手掛けた信時潔です。ある意味戦争の被害者とも言える二人は、この曲にどの様な思いを込めたのだろうか。

研修親睦旅行「上高地」

増山敏夫会員

5月28, 29日、一泊研修旅行が実現した。参加者15名もの盛会。早朝出発のサロンバスは、昼過ぎには新緑の別天地・上高地に到着。人気スポット・河童橋は中国語が飛びかいつーショットと燥ぐ。眼前に穂高連峰が迫る絶景だが、このアングルはまるで絵葉書！でもシャッターを押しちゃう。



新緑の穂高梓と河童橋 神谷虎子  
 雪渓を梓川より穂高かな 鈴木達夫  
 天上の夏座敷待つ槍穂高 増山胡桃子  
 河童橋を渡ると間もなく今夜の宿の「日本山岳研究所」、3階建ての立派なロッジである。玄関の柱に洒落た鐘が下がる。試しに紐を引くと「カーン…」と澄んだ音色に心が洗われる。リーダー西村会員のお世話で泊れるのだ。小休止の後、全員で明神池まで3キロ余り約3時間のウォーキングを楽しんだ。梓川を上流へ向かう。「山では上流から見ると左右が決まるのです」とリーダー。右なのに左岸とはややこしい。二輪草が樹間を埋め尽くして美しい。時折一行がはぐれない様、西村親鳥が「カア！」と啼く。

にやり顔男の子ころは二輪草 古澤靖雄  
 二輪草群れてようこそプロビアン 北村岳人  
 上高地みどりと花と梓川 秋山正仁  
 上高地咲き乱れるは二輪草 西村雲海  
 明神池は梓川の「右」岸、明神橋を渡り穂高神社の神域の中にある。拝観料300円を払って拝む池なのだ。ご神体明神岳はこの鏡の様な静謐な池からそそり立つ。栈橋には神司(かみつかさ)がお乗りになるお伽噺のような可愛い小舟が舳っていた。岡野、山田両画伯はスケッチに余念がない。  
 励まされ歩けた！見たぞ！！明神池 藤寄百日紅  
 明神のゆるる穂高や五月風 岡野流馬  
 絵に描いた如く緑の上高地 岳人  
 いよいよ夕食。老々は皆動きが軽い。事前に届いた「おでんパック」と「中村屋のレトルトカレーパック」をボイル、素敵な管理人元川さん心尽くしの御飯と味噌汁で準備完了！10本のワインと冷えたビールが待っている……。

会長挨拶と研修親睦委員長の乾杯！楽しい夕餉が始まった。澄んだ空気と解放感、心地良い疲れと酔い、他愛のない話…あとは寝るだけ！

酌み交わす住き友ありて夏の月 胡桃子  
 せせらぎに軒響くや穂高部屋 登坂征一郎  
 夏座敷旅の雑魚寝の夢の中 胡桃子  
 老々は寝るのも早い起きるのも早い、朝食は7時と言うのに5時にはもう布団をたたむ。食堂で屯していると戸袋に何者かが……一同仰天、相手もビックリ！  
 長虫の戸袋に入る山の宿 流馬  
 新緑のラジオ体操旅の朝 胡桃子  
 朝食は白い御飯と味噌汁と野沢菜。これがまた格別美味かった。食後はウェストン碑まで梓川沿いの散歩。  
 穂高背に小梨の白き花燃へり 倉賀野志水  
 ウェストン卿の遠き眼差し雲の峰 胡桃子  
 上高地吾が築庭とゆめのまた夢 靖雄  
 10時上高地に別れを告げ、穂高の隠れたビューポイント・中の湯温泉で湯に浸かり、蕎麦に舌づつみをうつ。  
 露天風呂のぞかれたかなホーホケキョ 小西紫香  
 天候に恵まれた旅の2日間でした。雨に濡れる夕暮れの桜ヶ丘に無事帰着、旅の幹事様ご苦勞様でした。  
 5月の穂高連峰と梓川！山岳研究所合宿！  
 秘湯・そば・無事！総てに感謝 山田正司

小さな国際交流

中村昭夫会員

古澤会員のお嬢様がイギリス留学中に結婚された現地のご主人と、小学2年生になった娘さん(美沙ちゃん)を連れて、今年4月に春休みを利用して古澤宅に10日間ほど滞在されました。折角の機会ということで古澤会員がソロバン教室で指導している多摩市立第2小学校2年生たちと美沙ちゃんとの交流会を設定しました。最初はお互いの挨拶からはじめ、美沙ちゃんのお父さんが撮ったロンドンを紹介するビデオを皆で見、日本の子ども達からロンドンでの暮らしについて積極的な質問が浴びせられました。日本語が不自由な美沙ちゃんはお母さんの通訳で答えていました。子ども達もロンドンを少し解ったようでした。最後の頃は、お互いにすっかり馴染んで小さな国際交流が終了しました。



◇◇◇ 会員の活動(つづき) ◇◇◇

高野山真言宗総本山金剛峰寺献茶式に参加して  
森川静子会員

世界遺産高野山は弘法大師空海が開いた真言密教の聖地であり、今年が開創から1200年を迎える。

この聖地で武者小路千家のお家元による献茶式が5月3日行われた。私を含め社中4人は高野山のふもとのホテルに前泊し7時過ぎの電車で現地へ向かった。50年に一度のご開帳とゴールデンウィークとが重なり車内は大変混雑していた。電車から降り、高野山行の急勾配のケーブルに5分ほど乗ると海拔900メートル33万坪の一大盆地高野山に着いた。ここは117の寺院があり、高校・大学をはじめ病院・警察・郵便局等の公共施設もあり一つの街を形成している。

さらに高野山駅からバスで12分ほど乗ると金剛峰寺に着く。もともと金剛峰寺は空海が名づけた寺名で当初は高野山全体が金剛峰寺と言われていた。しかしその後豊臣秀吉建立の青巖寺を金剛峰寺と改号し、現在では一つの寺院だけを指すようになっている。

金剛峰寺の西側に壇上伽藍という僧侶が集い修行する場所がありその中の金堂で献茶式が執り行われた。

ほらの音の合図のもと100人ほどの僧侶が列を組み金堂に向かい本堂に入ってきた。その後20数名僧侶が諷経のもと祭壇を回りはじめ暫くしてその場に座し諷経を続けた。午前10時に宗屋若宗匠が炭手前をその後不徹齋宗

匠が茶を献じられた。また、献茶と同時に僧侶による献花がなされ、花入れに十数本の菊を50センチ位の高さにいけ、対で右が白、左が紫の菊が献花された。今まで私は何度もお家元の献茶式に参加しているが、献茶式のお点前と並行して同時に献花をする姿を見たのは初めてである。

なお、献茶式以外に金剛峰寺の境内の何れも非公開の奥殿に拝服席(呈茶)、松下幸之助が寄贈した真松庵に副席(薄茶席)が設けられお茶を頂いた。

真松庵の取り合わせは床に天室和尚の一行「春色無高下」、香合は源氏車、花は本能寺伝来の唐銅耳付花入れに山芍薬、烏帽子棚に紅毛阿蘭陀の水指が良く映る。

お菓子は鶴屋八幡の「阜月の玉」という藤の花をイメージさせる薄紫のととても美味しいきんとんであった。

点心を頂き、全て終わったのが12時半、本当はじっくり高野山を散策しかっただが、人の多さに負け、先を急いで山を下りた。



左端が筆者

◇◇◇ 多摩と私 ◇◇◇

緑豊かな多摩に生きる 瀬尾日出男会員

多摩との関わりは一体何だろう?多摩に移り住んで早や41年、時の経つことの早いことに驚いているこの頃。私の生活記憶の原点は、最近、東京スカイツリーで人気の下町、押上・向島・曳舟がスタートです。学校から帰れば、鉄ペーゴマ、藤村・川上・千葉選手のメンコと三角ベースの野球遊び。戦災で焼け残った下町で過ごし、隣組の良き付き合いで育ち、特に、小学校5年の時に作詞の勝承夫先生が来校、直接タクトを振られ在校生全員(多かった!)で完成したばかりの校歌を歌った思い出、午前・午後に分かれての授業を受けたことなどが思い出されます。そのような時代・環境(昭和25~50年)の中

で過ごして来ましたが、今後の生活、成長する子供の環境を考え、思い切って、文字通り新しい町、多摩ニュータウンに転居することを決め、



昭和51年に賑やかな下町から、正直不安を感じながらも自然と緑豊かなニュータウン落合団地に移り、新しい生活が始まった。落合では、野球好きな子供たちを集め、落合レッドファイアーズのスタッフとして汗を流し、地区優勝を飾り、東京ドームに出場(左の写真)、地域の皆さんと楽しい日々を過ごした。その後、現在の豊ヶ丘に移り住んで27年、職任接近となり、ニュータウンの変容に驚いている昨今です。今では職場もリタイアして団地の大規模修繕のメンバーを担当、地域活動では、男だけの仲間料理づくりを楽しみ、男の茶道仲間の勉強会に参加、奥の深い作法を会得すべく「継続は力なり」を目指していきたいものです。また、東京多摩プロバスケットでは、経験豊富な先輩諸氏による卓話、講演会などに参加、貴重な経験を楽しんでいます。



男の茶道「侘助」の野点

9枚のイラストパネル

山田正司会員

80才を目前にして、本年4月に戸建て住宅から多摩ニュータウンの集合住宅に転居しました。当然のことながら住宅の面積は4割近くも縮小され、いわば強制的に断・捨・離を余儀なくされて身辺荷物を大量に処分せざるを得ませんでした。とりわけ仕事関係のものは全面的に廃棄し、僅かに残されたものの一つが標題のイラストパネルです。他に骨董、海外土産の類も少しは残りましたが、あえてこの一品を選びました。

日本の高度成長期、私は10余年の修業時代を経て、勇躍一人独立して建築設計事務所を始めた頃のことです。当時はまだ面識の浅い日本住宅公団の方から、控え目に低層住宅団地のイメージ表現依頼がありました。控え目とは委託料は少ないということですが私は即座に快諾しました。独立直後で仕事も少なく時間はたっぷりありました。生来絵を描くことは大好きで、住宅団地の構成メカニズムも十分心得ていたからです。

多摩ニュータウンの初期入居にみられる中層5階建団地は、当時画一的マンネリ化を理由に全国各地で団地おことわり運動が起きていました。しかし、2、3階建低層団地の事例はなく、誰もそのイメージすら描けない状況でした。修業時代に培った住宅団地の設計手法と、3年前の欧米住宅団地視察旅行の見聞を生かしてこれに全力投球で取り組みました。



公団型タウンハウス団地誕生の切っ掛けとなった  
低層団地の9枚のイメージイラストパネル

イメージとはいっても絵空事であっては意味がありません。さらに市街地と近郊と郊外では団地密度も空間構成も住宅形態も異なります。私は先ずそれぞれのケースのモデル3団地の配置図を作成しました。その上で住宅近辺とやや離れた幼児公園回りとさらに離れた広い公園回りの3パターンに分けて3ケースごと合計9パターンのイメージ図を、集中して一気に描き上げました。

成果は私なりに手応えもあり、住宅公団内部でも大変に高い評価をいただきました。当時、建設省住宅局長の経歴を持つ公団新理事のトップ決断もあって、公団型タウンハウス団地誕生への道筋ができました。その後は綿密な試設



左段「9枚のイラスト」から、市街地での住宅近辺のイメージを拡大したイラストパネルの1枚

計の段階を経て、昭和54年3月、ついに多摩ニュータウンに第一号のタウンハウス諏訪が誕生しました。設計段階では常に私の設計事務所が深く関わることができて大変幸せでした。

以来今日まで、団地設計を生業として、多摩ニュータウン建設にも深く関わり、ついにはこの街を終の棲家となすに至った、私にとってはかけがえのない大切な「9枚のイラストパネル」です

◇◇◇ ハッピーバースデー ◇◇◇

5月誕生日を迎え  
られました！

6月誕生日を迎え  
られました！



永田宗義会員 森川静子会員



北村克彦会員

◇◇◇ 編集後記 ◇◇◇

梅雨特有の不安定な日々が続いています。今号も充実した記事が多く素晴らしい内容となりました。○森川静子地域奉仕委員長は巻頭言でわれわれ高齢者の切実な悩みに触れ、また五十年に一度といわれる高野山金剛峯寺での献茶式に参加された一部始終を健筆でレポートされました。○上高地への一泊研修旅行については、増山敏夫会員の歯切れのいい名調子の報告と、参加者全員の新鮮な秀句とがハイブリッドされて格調の高いレポートとなりました。○山田正司会員の“私の一品”で取り上げられた九枚のイラストパネルは、まさに同会員の生涯を左右した乾坤一擲の大ヒットプランであり、感動させられました。○阪東熙子会員の卓話は、古来からの生活文化である“衣更え”を切り口にして自在に書き分けられたもので、同会員の“茶の湯”にまつわる伝統文化の該博な知見に、改めて感心させられました。○今号の編集にあたり貴重な時間と労力をさいて寄稿頂いた会員各位に敬意を表し厚く御礼申し上げます。

(広報委員 平田哲郎記)